

# 活動レポート

## 北方海域技術研究委員会

文責：北方海域技術研究委員会幹事長 松本英明

### 平成 29 年度定例会の報告

#### 1. はじめに

北方海域技術研究委員会では、2017 年(平成 29 年)10 月 6 日、日本最北端である稚内市の稚内水産試験場会議室にて、地方独立行政法人北海道立総合研究機構の後援のもと「平成 29 年度定例会」を開催しました。本年は 48 名(うち技術士 16 名、日本技術士会会員 10 名)の参加を得ることができました。

講演会は、当研究委員会の若林代表の趣旨説明と北海道立総合研究機構稚内水産試験場長の前田圭司氏の開会挨拶を皮切りに、当研究委員会の河合幹事の司会のもと、ご講演 3 件の内容にて開催しました。また講演会に先立ち、稚内水産試験場の現地視察を行ったほか、講演会終了後は意見交歓会を開催しました。以下に本講演会の内容をご報告します。



写真-1 稚内水産試験場

#### 2. 現地視察

現地視察では稚内水産試験場調査研究部長の山口幹人氏と美坂主幹のご案内を頂きながら、場内施設について視察しました。まず始めに場内に整備された情報発信パネルを用いて、稚内水産試験場の沿革や、場内で行われている試験研究の概要を説明して

頂きました。その後、平成 10 年に新築された庁舎を巡回し、遺伝学的手法によって系統群の解明を行う遺伝実験室等の研究室、分析機器、ROV、飼育水槽などの様々な研究施設を視察しました。



写真-2 熱心に説明を聞く参加者

#### 3. 講演 1

北海道立総合研究機構 稚内水産試験場 調査研究部 管理増殖グループ主査の佐野稔氏を講師としてお招きし『資源管理と漁家経営を両立する資源管理支援システム』と題してご講演頂きました。



写真-3 佐野稔 講師

まず宗谷海域のミズダコ樽流し漁業について、短波海洋レーダを活用した潮回り予測と、潮流カレンダーの作成によって無駄な出漁が減少した事が説明されました。次いでマナマコの資源管理として漁業情報を用いた面積密度法による高精度な資源量推定と、それを生かした資源管理システムの構築について説明されました。質疑応答では、マナマコの減耗要因など活発な質疑応答が行われました。

#### 4. 講演 2

北海道開発局 稚内開発建設部 稚内港湾事務所の伊藤雅和 計画係長を講師としてお招きし、『ウラジオストクを中心とするロシア極東の港湾情勢』と題してご講演頂きました。



写真-4 伊藤雅和 講師

講演では、まずロシア連邦およびウラジオストクの概要と沿海地方に点在する港湾の概要について説明され、次いで北極海航路やクルーズ船寄港、ウラジオストクの観光資源等のトピックが紹介されました。最後にウラジオストク港の漁港としての利用など、活発な質疑応答が行われました。

#### 5. 講演 3

稚内市役所建設産業部物流港湾課事業推進グループ主査の扇谷憲生氏を講師としてお招きし『稚内港クルーズ拠点港に向けた取り組みについて』と題してご講演頂きました。

講演は稚内港の沿革・概要から始まり、北防波堤ドームやみなとでのイベントなど観光資源の紹介が

説明されました。そして国内・道内および稚内港でのクルーズ船寄港状況について説明され、クルーズ船誘致に向けた岸壁整備やポートセールスの状況、クルーズ船受け入れに向けた課題と取組について説明されました。



写真-5 扇谷憲生 講師

#### 6. おわりに

本定例会では、宗谷地方の漁業を支える技術、隣国ロシアの最新事情、稚内港のクルーズ拠点港に向けた意気込みについてご講演頂き、北方海域の今後の展望について考える有益な機会となりました。

最後に、ご多忙中、快くご講演をお引き受け頂いた各講師と、現地視察や講演会場の提供など企画全体を通じて全面的にご協力いただいた稚内水産試験場の皆様に心から御礼申し上げます。



写真-6 熱心に講演に耳を傾ける参加者